

決行（決裁）後
回覽課名

永命
云子

陸軍省
9.10.8
軍事課

生 車

副官ヨリ陸軍技術本部長へ通牒

首題拳銃九月二十六日附陸技本甲第五二
五號上申、通定メラルヘキニ付該圖面百十三部
送付セラレ度

陸普第六二八八號

昭和九年十月廿日

右圖面送付アリタル後左案決行相成度

副官ヨリ別紙配賦表、箇所へ通牒

首題拳銃別紙圖面非概説、通定メラルヘシニ

付部送付ス

陸普第七四四二號

昭和九年十二月十二日

該圖面(概説共)

昭和十年一月廿日

(署名)

昭和十年三月六日

九四式拳銃

配賦表

配賦箇所	部数	配賦箇所	部数
兵器局	一	臺灣軍	一
教育總監部	五	關東軍	一
兵器本廠	一	要塞	(二七)各一
造兵廠	四九	支那駐屯軍	一
技術本部	六		
航空本部	一		
築城本部	一		
師團(除第三師團)	(二五)各一		
第二師團	二		
第三師團	二	計	一一三



別紙添付
圖面添付

陸技本甲第五二五號

九四式拳銃準制式制定相成度件上申

昭和九年九月二十六日

陸軍技術本部長 岸 本

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿

將校用トシテ審査セシ小型自動拳銃ヲ別紙ノ通準制式トシテ制定相成度

添付書類

九四式拳銃準制式兵器圖

同 細目名稱表

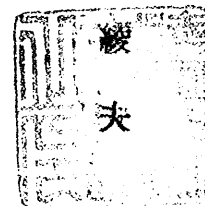
同 審査經過ノ概要

同 概 説

壹 陸軍省
貳 陸軍省
貳 陸軍省
貳 陸軍省



陸



九四式拳銃概説

一、目的

本拳銃ハ主トシテ將校用トス

二、構造及機能

機關様式ハ銃身及被筒後坐ノ反動利用式ニシテ銃ハ銃身、被筒、銃床、遊底及彈倉ノ主要部品ヨリ成リ別ニ屬品ヲ附ス

1、銃身

口徑八耗ニシテ十四年式拳銃實包ニ適應セシメ後端外部ノ下面ニハ門子ヲ附隨ス

2、被筒

銃身ヲ被包シ圓筒ニ連結シ復坐ばね、同覆ヲ附隨ス復坐ばねハ銃身ヲ縛リテ銃床トノ間ニ介在シ圓筒、被筒、門子、銃身復坐運動ヲ興フ

3、銃床

上方内部ハ銃身、被筒及遊底ノ室トシ之カ滑走溝ヲ成形ス下方把部ノ内部ハ彈倉室トス圓筒室ノ外部後方ニ懸紐止ヲ鋳著シ被筒室ノ兩側面ニハ門子

陸軍

受被ヲ附着ス附隨品トシテ引鐵、彈倉止、逆鉤、安全栓、床把、安全子、鑿鐵及銃子ノ主要部品ヲ設ク

4、遊底

圓筒、抽筒子及鑿莖ヨリ成リ、銃床ノ室ニ裝シ圓筒駐栓ニヨリ被筒ニ連結ス

5、彈倉

二箇トシ体、受筒板、彈倉底及彈倉ばねヨリ成リ一彈倉ノ裝彈數ハ六發トス

6、屬品

懸紐、柄杖及囊ヨリ成リ囊ニハ負革ヲ附ス銃ヲ携行スルニハ彈倉一及柄杖ト共ニ囊ニ收容シ之ヲ肩ヨリ懸吊ス

射撃スルニハ彈倉ニ實包ヲ裝シテ銃床ニ込メ圓筒後端ヲ摺ミテ之ヲ後方ニ停止スル迄引キテ之ヲ離ストキハ第一發ヲ裝填スルヲ以テ引鐵ヲ後方ニ引ケハ發射シ次發以後ハ每發引鐵ヲ後方ニ引ケハ彈倉内實包ノ盡クル迄連續單發ヲ成シ得其ノ運動機構ハ發射スルヤ瓦斯壓ニヨリ先ツ圓筒ハ銃尾ヲ閉鎖ノ儘銃身ト共ニ後坐ヲ始メ次テ門子及銃身ハ停止シ圓筒及被筒ノミ後坐シ銃尾ヲ開クヲ以テ打殼藥莖ヲ蹴出ス此際遊底ノ後坐ニヨリ鑿鐵ヲ後方

陸軍

ニ回轉セシメテ之ニ餘壓ヲ與ヘ打撃準備姿勢ヲ採ラシム

次テ復坐ばねノ彈撥力ニヨリ銃身、被筒、遊底復坐シ次發ヲ裝填シテ閉鎖
ス、ココニ於テ引鐵ヲ引ケハ逆鉤ニ作用シ逆鉤ハ擊鐵ノ鉤止ヲ解クヲ以テ
回轉シテ擊鐵ヲ打撃シ發射セシム、不時ノ危害防止ノタメ逆鉤ノ作用ヲ不能
ナラシムヘキ安全栓ト彈倉ヲ銃床ニ込メサレハ引鐵ヲ引キ得サル安全子ト
ヲ備フ

九四式拳銃審査經過ノ概要

一、審査起源ノ大要

南部銃製造所ニ於テ將校用拳銃ヲ研究中ノ所兵器局ノ指示ニヨリ昭和八年一月之ニ具備スヘキ條件ヲ左記ノ通提示ス

試製小型拳銃設計條件

目的

現制十四年式拳銃實包ヲ使用シ機能完全、輕量小型ニシテ價格低廉ナル自動裝填ノ拳銃ヲ得ントス

設計ノ基礎條件

一、重量ハ八〇〇瓦以內トス

二、口徑ハ八糎トシ現制十四年式實包ヲ使用ス

三、價格ハ昭和八年四月ヲ基礎トシ大量製産ニ於テ總ヲ含ミ五〇圓ヲ超過セサルキコト

四、機構簡單、堅牢、操用便ニシテ且部品數ナルヘク少キコト

五、給彈樣式ハ六乃至八發入彈倉ヲ使用シ反動利用ノ自動裝填式トス

昭和九年九月廿六日
陸軍技術本部第一部
陸軍

六、命中精度ハ五〇米ニ於ケル公算躲避上下五〇左右五〇糎以内ナラシムルコト
 七、威力ハ五〇米ニ於テ生松板九〇糎以上ヲ侵徹シ得ルヲ要ス

八、照準具ハ照星、照門式トシ照尺ヲ附ヤス

九、安全裝置ヲ附シ之ヲ二重トス（引鐵、逆鉤）

一〇、普通分解並結合ノ爲メニハ分解器ヲ要セサルコト

以上ニ基キ試製セラレタル試製小型拳銃ヲ昭和八年九月兵第八〇五號ヲ以テ
 審査方ノ件照會アリタルニヨリ審査ス

二、審査經過ノ概要

一、昭和九年一月三十、三十一日十條及東京兵器製造所構内射場ニ於テ第一回
 試製品ノ初速、命中、侵徹及第一次機能試験ヲ實施ヤシニ初速、命中、侵
 徹成績ハ之ト比較審査ヤシ「ブローニング」護身用大型ニ優レルモ十四年
 式拳銃ヨリ稍々劣レリ又機能試験ノ成績ハ後坐不足ニ基ク突込ト不發頻發
 ヤシヲ以テ發射彈數約二五〇發ニテ試験ヲ中止シ應急的處置トシテ銃ノ圓
 筒駐栓ヲ新調ヤシメ彈倉ノ不具合ノ點ヲ修正シ彈倉駐子ヲ沈メ同年二月二
 十一日第二次機能試験ヲ實施シ發射彈約二五〇發發射ヤシニ機能稍々良好
 トナレリ

昭和九年一月三十日
 陸軍省兵器課
 附録試製銃試射報告書

陸軍

以上ノ結果ニ基キ左記修正事項ヲ示シ第二回試製品提出ヲ要求ス之ニ對シ改正シタル事項亦次表ノ如シ

試製將校拳銃改正事項

改正指示		部改正指示		要領		由改正シタル事項	
一	銃床上部後端被筒室	約一〇耗前方ニ移ス	圓筒把部ヲ後端ニ設ケ且圓筒駐杓脱落防止ノ爲	七耗前方ニ移ス	同	大型銃小型銃	
二	照門	實體小溝トシ高サ約二耗以内トス	製作ヲ容易ニス	五耗ヲ二耗ニ改修ス	同		
三	銃床前端被筒室	一〇耗短縮ス (一銃ノミ)	銃身短縮ニ伴フ		被筒ヲ短縮シ銃床ハ改修セリ		
四	用心	鑑出來得ル限り減量ス	重量ヲ輕減ス	減量ス	同		
五	銃床彈倉室彈倉解脫用弧削部ヲ出來得ル限り深クス	解脫ヲ容易ニス	深サ五耗ヲ九耗トナリ	同			
六	銃床全般	出來得ル限り減量	重量ヲ輕減ス	約二五瓦減量ス	同		

七撃	出 來 得 ル 限 リ 小 型 ト シ ば ね ノ 抗 力 ヲ 最 小 限 ニ 止 メ 以 テ 出 來 得 レ ハ 滑 輪 ヲ 廢 止 ス	後 坐 ヲ 容 易 ニ シ 且 製 造 ヲ 容 易 ニ ス	
八銃床後端擊鐵窓	下 方 ヲ 塞 キ 更 ニ 擊 鐵 ノ 改 分 解 結 合 上 差 支 正 ニ 俟 テ 窓 ヲ 縮 小 ス ナ シ	窓 ヲ 塞 ク 同	
九門子室被	取 付 作 業 ノ 確 實 ヲ 期 ス	作 業 ヲ 確 實 ニ セ リ 同	
一〇銃身長	一〇耗短縮ス (一銃ノミ)	精 度 ニ 大 差 ナ シ ト 認 メ 輕 量 小 型 ト ス	九 七 耗 ヲ 九 九 七 耗 ヲ 八 八 六 耗 ト セ リ 耗 ト ス
一一照星	實 体 小 溝 ト シ 高 サ 約 二 粒 以 内 ト ス	製 作 ヲ 容 易 ニ ス	七 耗 ヲ 一 九 耗 ト ス 同
一二圓筒	筒 防 塵 覆 ノ 經 始 ヲ 改 メ 開 退 用 把 部 ヲ 設 ク	被 筒 中 央 部 把 部 廢 止 ニ 伴 フ	改 修 ス 同
一三圓筒	筒 出 來 得 レ ハ 減 量 ス	重 量 ヲ 輕 減 ス	約 四 瓦 減 量 同
一四被筒	中 央 把 部 ヲ 廢 ス	圓 筒 後 端 部 ニ 把 部 ヲ 設 ク	改 修 ス 同

一五被	筒出來得ル限り減量ス	重量ヲ輕減ス	約一六瓦減 量ス	約二二瓦減 量ス
一六被	筒 前端ヲ一〇耗短縮ス (一銃ノミ)	銃身ノ短縮ニ伴 フ	改修セス	八耗短縮ス
一七彈 倉止	拇指頭ニ依リ容易ニ作用 セサル如ク沈頭ス	脱落ヲ防止ス	約二五耗短 縮ス	同
一八握	把 「ローレット」ハ菱目ト シ「エボナイト」製平板 トス	品位ヲ向上シ且 製作ヲ容易ニス	改正ス	同
一九引	鐵 擊發ニ支障ナキ程度ニ於 テ後方ニ彎曲セシム	手套使用ニ便ス	改修ス	同
二〇蹴	子 蹴出方向ヲ確實ニスル如 ク後坐運動系統ノ研究ト 相俟テ一層改善ス	不整作用ヲ防止 ス	蹴子ノ高サ ニ五耗ヲ三 五耗ニ改修 ス	同
二一復坐ばね	相聯繫シテ其ノ抗力ニツ	機能ヲ向上シ突	同	同
二二彈倉ばね	キ研究ス	達ヲ防止ス	同	同
二三擊鐵ばね				

陸軍

二四彈	實抱持部經始ヲ改良シ 倉且爪掛上方餘肉ヲ増加ス 品質ヲ向上ス	機能ヲ向上シ且 堅牢ニス 爪掛通路溝 ヲ後方ニ移 シ上方餘肉 ヲ増シ全重 量ヲ約一五 瓦輕減ス	
二五各	ばね 一端ヲ擴大スルカ又ハ室 一部ノ形狀ニ工夫ヲ凝テ シ脱落セサル如ク改ム	結合ヲ容易ニス改 修ス同	
二六逆	鉤	銃床ノ側部 逆鉤室ノ 肉ヲ増シ外周 力ニ依ル打 突ヲ防止ス	
二七銃	全備	重量ニテ約 六〇瓦減ス 全長ニ於テ八 耗重量ニ於テ 七三瓦減ス	

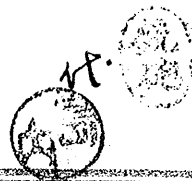
2、昭和九年六月二十九日修正銃三挺（内大型二、小型一）銃身及被筒ヲ8耗短縮
セルモノ（一）附圖参照 完成シ提出ス

才カ審査イ結果初速約三〇〇米命中精度ハ公算躲避上下約五—木纏左布五—木

試製 將校用拳銃



陸軍



參第八一〇號

陸技本甲第六六八號

九四式拳銃圖面竝概説送付ノ件通牒

昭和九年十二月七日

陸軍技術本部副官 岡田

陸軍省副官 牛島

滿 殿

本年十月二十日附陸普第六二八八號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝概説各百拾參通送付ス
追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課ヘ直送可致ニ付承知セラレ度



陸軍

副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒

首題細目名稱表別紙、通定セラレシニ付平時
用 部送付ス

追テ配賦區分ハ基準表(平時用)全部、部ニ
從ヒ十四年式拳銃、次ニ綴込ムヘキモノニ付申添フ

陸軍第六

昭和十年一月七日

本表ハ別紙原稿ニ依リ官房ニ於テ五〇部印刷
相成度

昭和十年二月十八日

陸軍第六

兵器細目名稱表(九四式拳銃)											配賦箇所
航空本部	築城部本部	技術本部	造兵廠	兵器本廠	教育總監部	參謀本部	兵器局	整備局	軍務局	大臣官房	
五	一	一五	五六	三二	一九	三	三	二	三	二	
師團							憲兵司令部	侍從武官府	經理學校	運輸部	配賦箇所
第六	第五	第四	第三	第二	第一	近衛					
九	五	七	七	七	九	五	二	一	一	九	

配賦表

[illegible]

10

第四師團 兵 第四四一號

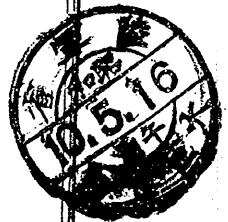
制式圖ニ關スル件通牒

昭和拾年五月拾四日

第四師團參謀長田中靜壹

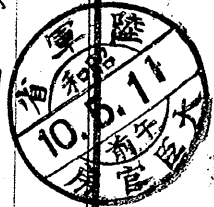
陸軍省副官牛島満殿

五月八日兵第四一ニ號ヲ以テ照會セシ旨題ノ件取調ノ結果受領ニアリシニ付通牒ス



陸軍

第四師團 第四八二號



陸軍

制式圖末着ノ件照會

昭和拾年五月八日

第四師團參謀長田中靜壹

陸軍省副官牛島満殿

昭和九年十一月十一日陸普第七四四二號通牒ニ係ル
尤部圖面末着ニ付照會ス

尤部

九四式拳銃準制式兵型照圖(概説共)一部